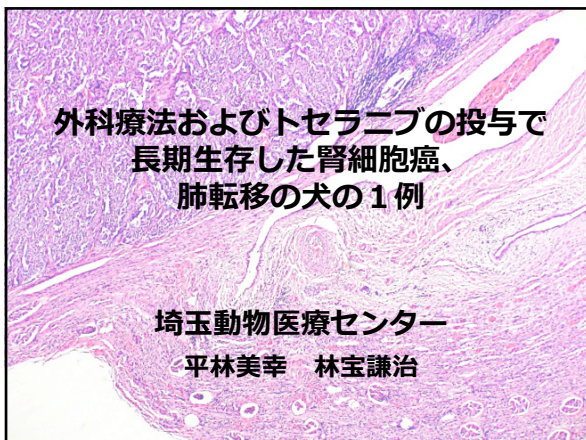
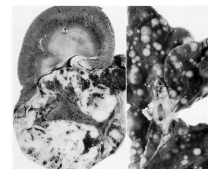




犬の腎細胞癌

- 発生は犬の腫瘍の0.05-1.5%
 - 腎臓腫瘍の約6割
- 血尿や食欲不振を示すことが多い
- 診断時にしばしば転移がみられる
 - 肺 : 11-75%
 - リンパ節 : 50%



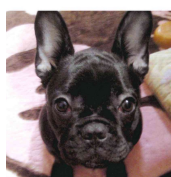
- 腎臓病変の摘出だけでは完治が難しいことが多い
- 犬では確立した化学療法はない

Meuten DJ. Tumors of the Urinary System of Domestic Animals. 5th ed. 2016.
Bryan JN, et al. J Vet Intern Med. 2006.
Lucke VM, et al. Vet Pathol. 1976.
Edmondson EF, et al. Vet Pathol. 2015.

症例

プロフィール

- フレンチ・ブルドッグ
- 4歳齢
- 避妊メス



主訴

- 血尿と食欲不振
(紹介受診)

紹介病院での超音波検査

- 右側腎臓に腫瘍

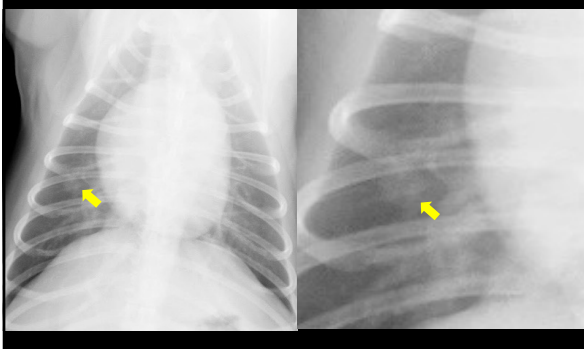
検査結果

基準値

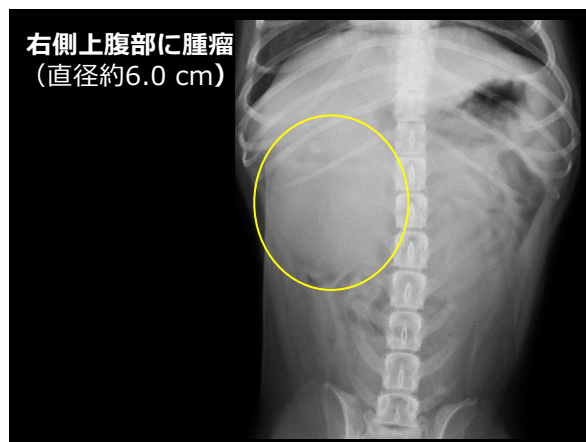
CBC	特異所見なし		
血液化学検査	CRP 上昇	(3.8 mg/dl)	< 0.7
血液凝固	FDP 上昇	(11.8 µg/ml)	< 10
線溶系検査	TAT* 上昇	(18.8 ng/ml)	< 0.4
尿検査	潜血反応	陽性	陰性

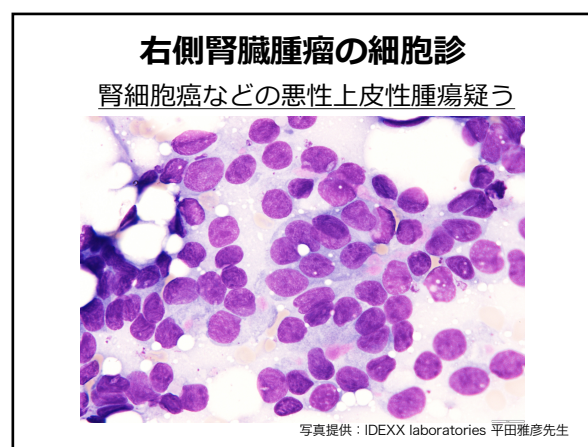
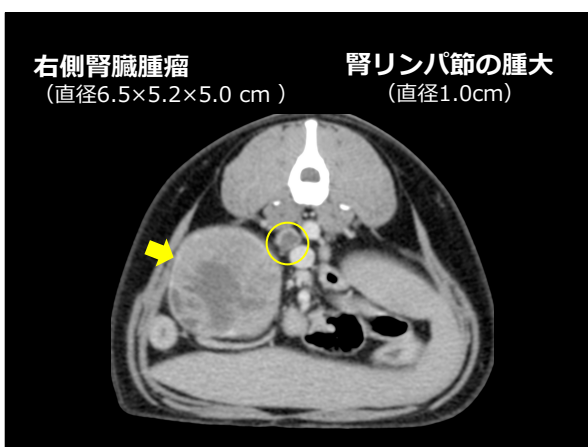
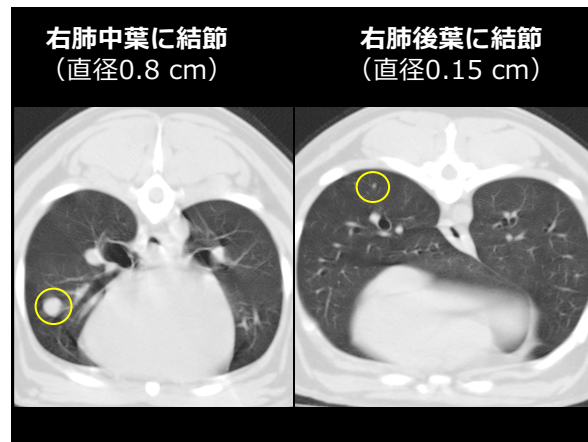
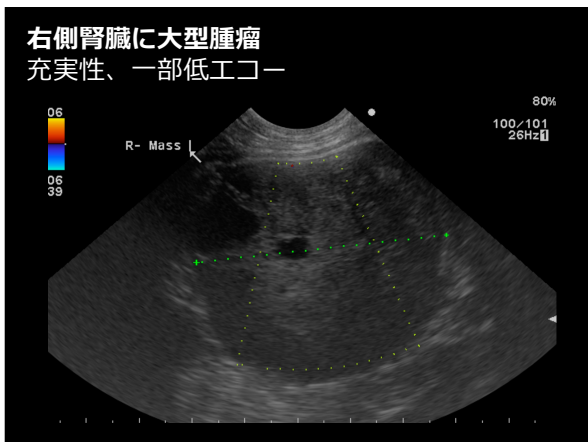
* TAT : トロンビン-アンチトロンビン複合体

右肺中葉に結節
(直径0.8 cm)

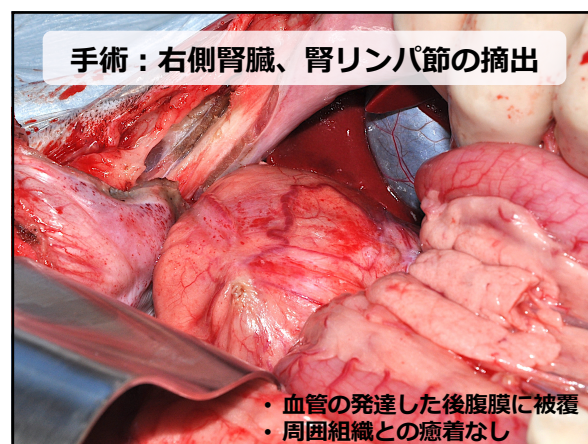


右側上腹部に腫瘍
(直径約6.0 cm)

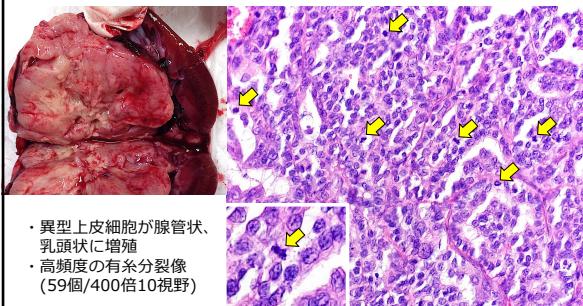




治療方針		
問題点	治療	目的
臨床症状 血尿 食欲不振	<外科療法> 右側腎臓、 腎リンパ節の 摘出	臨床症状、 血栓の コントロール
検査結果 凝固亢進 右側腎臓に腫瘍性病変 リンパ節転移を疑う 肺転移を疑う		腫瘍の減容積
	<化学療法> トセラニブ	転移巣の抑制



病理組織学的診断



- ・異型上皮細胞が腺管状、乳頭状に増殖
- ・高頻度の有糸分裂像 (59個/400倍10視野)

腎細胞癌、リンパ節転移なし

診断

腎細胞癌、肺転移あり

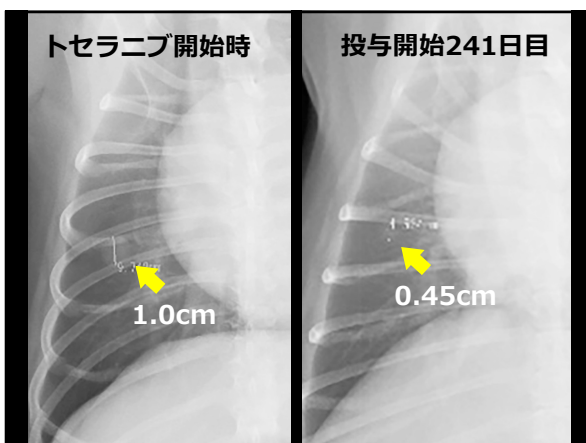
術後、食欲の回復および血尿の消失



術後18日目～

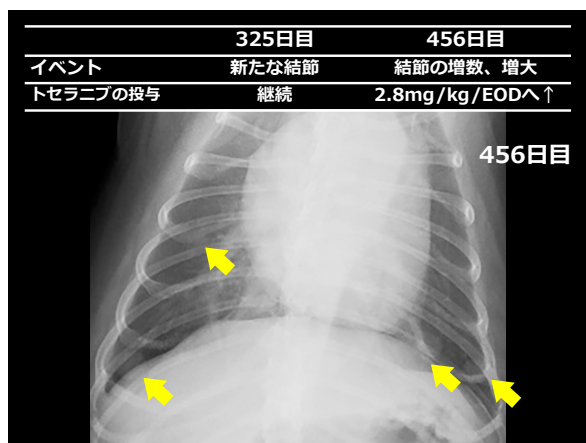
化学療法：トセラニブ
2.2mg/kg/EOD

トセラニブ開始時



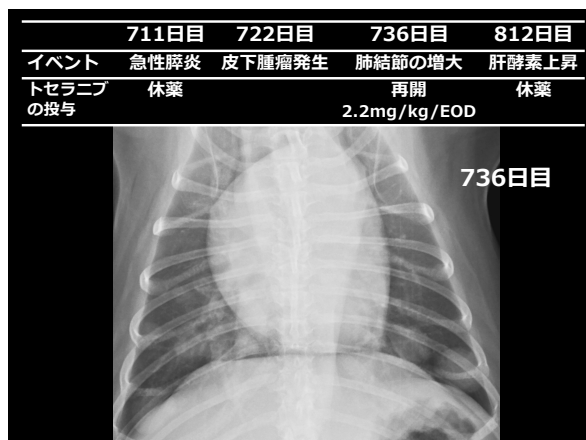
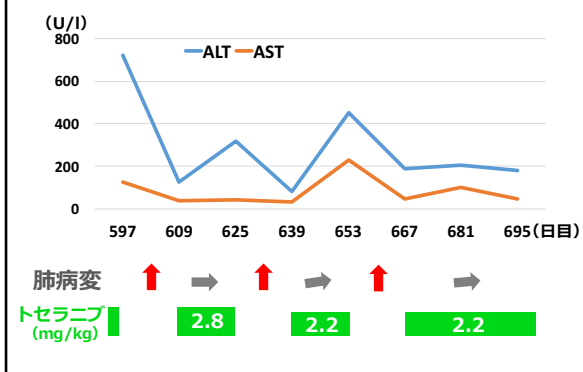
投与開始241日目

0.45cm

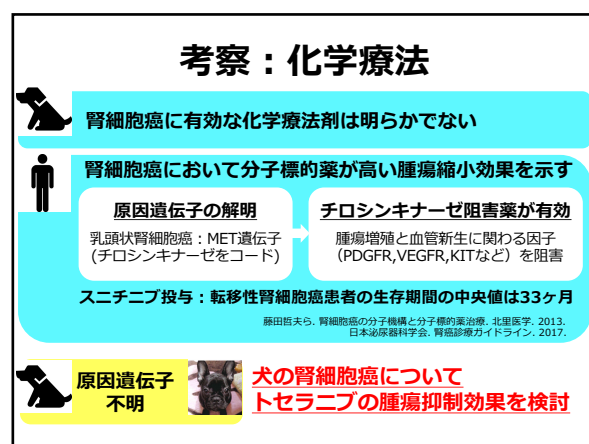
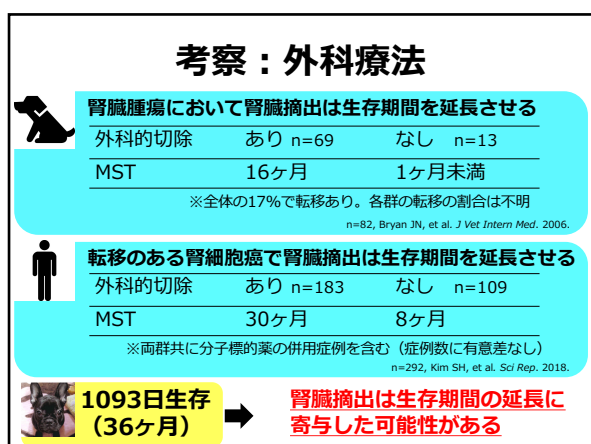
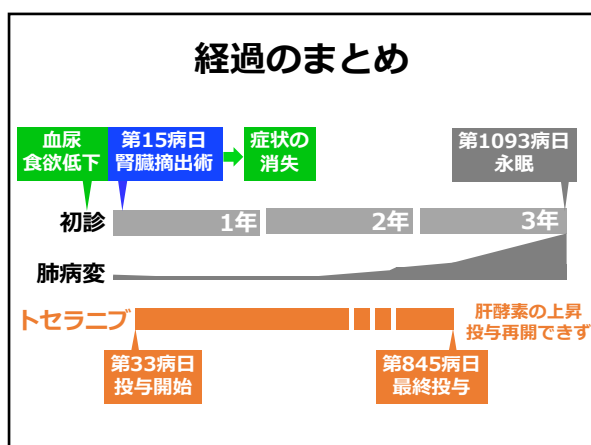
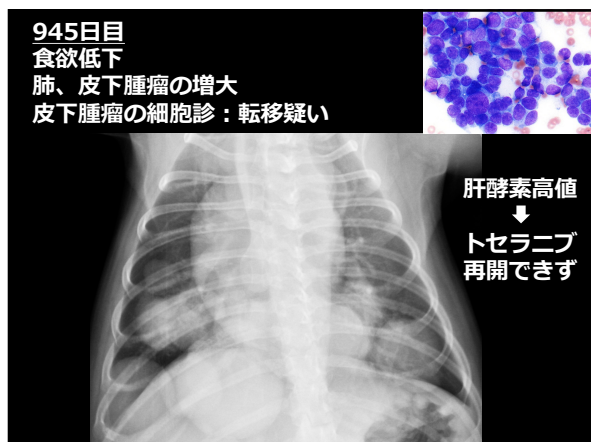


	325日目	456日目
イベント	新たな結節	結節の増数、増大
トセラニブの投与	継続	2.8mg/kg/EODへ↑

肝酵素の上昇とトセラニブの投与調整



	711日目	722日目	736日目	812日目
イベント	急性肺炎	皮下腫瘍発生	肺結節の増大	肝酵素上昇
トセラニブの投与	休薬	再開	再開	休薬
			2.2mg/kg/EOD	



考察のまとめ



腎臓摘出

+

転移巣に対し
トセラニブ



1093日生存
(36ヶ月)



腎細胞癌

- ・ 転移しやすい
- ・ 有効な化学療法剤は不明

遺伝子変異や
治療薬の検索が
必要

転移を伴う症例の腎臓摘出や、
トセラニブの投与を今後も検討していきたい